

## 山口図書館本『仮御手鑑』について

田村哲夫

山口県立山口図書館が昭和三十年四月ごろに某古書店から入手した「仮御手鑑」は、その内容において大内氏関係者の筆跡が多く、特に山口で活躍した連歌師の短冊四十数枚が含まれている。従来は「明翰抄（続群書類従雑部収録）」に見える山口連歌師十八名が知られ、近藤清石編する「汲古集（明治廿四刊）」に大内氏関係者百三十名余の和歌を集めている。この「仮御手鑑」はそれ以外の大内殿内連歌師の筆跡を多く集録しているのが特色である。

山口図書館本『仮御手鑑』について（田村）

「仮御手鑑」は縦三四・七厘、横三大・八厘、紺色厚表紙折本仕立の大型の帖であって、別に題箋はついていないが、その包紙に「仮御手鑑 五番 岩本長右衛門・高橋兼左衛門仕調」と記入されている。また別冊横帳綴のもの一冊が添えられており、その表紙に「仮御手鑑入 記御根帳 安永二年巳十二月」と書かれ、桐の木箱に収められている。

この「仮御手鑑」が何処にあったものか不明であるが、大内義隆の社頭霞と題する和歌短冊が、汲古集にあ

る子爵毛利家所蔵のものと同じ和歌であるので、或は長府の毛利元敏家旧蔵で、包紙に見える岩本長右衛門・高橋兼左衛門は長府藩の家臣かと考えられる。

さて、この「仮御手鑑」に貼りこんである短冊・古筆切等の右角に「山」の黒印を押した宛札(きわめふだ)が添えてある。琴山は江戸時代の筆跡鑑定家である古筆家が使用した極印であるが、何代目の古筆家か不明である。また「日本歴史辞典」の古筆了佐の項に「ただし、かれの鑑定も今日の研究によれば信じがたいものが少なくない」と解説している。

今回この「仮御手鑑」の全文を史料紹介するに当っては、山口県立山口図書館長の御了解のもと、樹下司書のご協力を得たことにつき厚く御礼申し上げます。

なお、筆者が補註した文面はすべて( )でくくり、特に宛札にある作者名の下の( )内は、その作者の身分・歿年・享年等を示すものである。また一点ごとの通番も宛札の上に筆者が加えたものであることをお断わりしておく。

「仮御手鑑」の全文は次の通りである。

1 後土御門院成仁(明応9崩59)

千鳥 夜をさむミ霜さへふかくをくの海の

しほのひかたに千とりなく也

成仁

2 後柏原院勝仁(大永6崩63)

朝鶯 村すゝめねくらの竹のおなしきに

けさめつらしきうくひすの声

勝仁

3 後奈良院知仁(弘治3崩62)

野花 花の枝のほかにミたれてをく露の

非一

千くさにあまる野への秋かせ

知仁

4 正親町院方仁(文禄2崩77)

岡月 名にしおふこよひの月にときへなる

松も色そふをかのへのさと

方仁

5 近衛殿尚通公御法名大証(准三后、天文13薨73)

知やいかに千とせの春を一すちに

ちきる心のいと桜とは

大証

6 近衛殿前嗣公(太政大臣前久、慶長17薨77)

恨恋 うらみしとおもへつらき心をも

憂身のほとのことほりにして

前嗣

7 近衛殿前久公御法名竜山(6番と同人)

仙岩菊 数ならぬ人わきしてや忍ひ音を

返歌

よそにハもらす山ほとゝぎす

竜山

8 二条殿尹房公御法名紹恵(関白、天文20於防州薨56)

都早春 分てまつ花の都の名にたてる

かすみや春をさそひきぬらん

紹恵

9 一条殿兼良公御法名覚恵(太政大臣、文明13薨80)

羅浮山 梅か香をかりねの山に夢さめて

木すゑにさはく村鳥の声

覚恵

10 菊亭殿宣季公御一字名亘(右大臣、慶安5薨59)

和□ わするなよしはしわかるゝ旅とても

まいる

なれし都の春のけしきを

亘

11 転法輪殿実量公御法名禪空(左大臣、文明16薨59)

秋夕風 夕あらしはらふな苔のたもとにも

露たにあらは月そやとらむ

禪空

12 転法輪殿実香公御法名諦空(太政大臣、永禄2薨91)

野径薄 吹わくる雪風に露も玉ほこの

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

「仮御手鑑」の全文は次の通りである。

1 後土御門院成仁(明応9崩59)

千鳥 夜をさむミ霜さへふかくをくの海の

しほのひかたに千とりなく也

成仁

2 後柏原院勝仁(大永6崩63)

朝鶯 村すゝめねくらの竹のおなしきに

けさめつらしきうくひすの声

勝仁

3 後奈良院知仁(弘治3崩62)

野花 花の枝のほかにミたれてをく露の

非一

千くさにあまる野への秋かせ

知仁

4 正親町院方仁(文禄2崩77)

岡月 名にしおふこよひの月にときへなる

松も色そふをかのへのさと

方仁

5 近衛殿尚通公御法名大証(准三后、天文13薨73)

知やいかに千とせの春を一すちに

ちきる心のいと桜とは

大証

6 近衛殿前嗣公(太政大臣前久、慶長17薨77)

恨恋 うらみしとおもへつらき心をも

みちせはからぬなひく小薄

諦空

13 三条西殿実隆公御法名堯空(内大臣、天文6薨83)

初春霞 春へまた誰にしのふのすり衣

みたれてうすく立霞かな

堯空

14 三条西殿公条公御法名仍覚(右大臣、永禄6薨77)

社頭祝 ことの葉の道にひかれて君か代も

まさこのかすにすミよしの浜

仍覚

15 三条西三光院殿実世公(内大臣実枝、天正7薨69)

鷹狩 ふみたつるかつハのきゝす雪のうへハ

しハしかくれむかけたにもなし

実世

16 三条西殿実枝公(15番と同人)

睡眠 さめつゝも夜ふかき夢のあやしきハ

易覚

枕の中の鳥やなくらむ

実枝

17 万里小路殿惟房公御一字名蜀(内大臣、元亀4薨61)

御返事 昔のとほそおもひへぬるうき身より

まいる

とふへき風のつてさへもなし

蜀

18 清閑寺殿保房公(権大納言熙房、貞享3薨54)

庭松 立そハむみとりもいく世君か代の

はるにさかふるやとの松か枝 保房

書かはすあまたのかすをあはれ我

19 持明院殿基規卿御法名宗栄(権中納言、天文20薨60)

一度君に逢世ともかな

宋世

柏藪 風にちるをとへあられの玉柏

25 飛鳥井殿雅昭卿(権大納言雅章、延宝7薨69)

もとす柴までも残るとはなし 宗栄

墳亡羊翁たゝひとつ梢にのこるありのミは

20 下冷泉殿政為卿御法名晧寛(権大納言、大永3薨78)

之高吟子 又備笑具 あちきなしとや人のいふらん

雅昭

鹿声 催涙 とはゝやな妻とひわひてなく鹿も

26 竹内殿当治卿(刑部卿惟庸、宝永1薨69)

われはかりやハ涙もろなる 晧寛

七夕 くれて吹おひてのがせも七夕の

21 飛鳥井殿雅親卿御法名栄雅(権大納言、延徳6薨74)

舟出やいそく天の川波 当治

時雨 夕つく日さそやと山のま木の葉に

27 綾小路殿俊量卿御法名量秀(権中納言、永正15薨68)

かたへ時雨る色そさひぬる 栄雅

恋車 たのむそよ別のみちの柴くるま

22 飛鳥井殿雅継卿(権大納言雅庸、元和12薨47)

28 五辻殿政仲卿(歳人泰仲、文明2出家)

ちりて行名残ハおもへ植そへん

暮秋虫 このころはむしのなく音もよはるらし

みきりの花の春をまつとも 雅継

した露寒きみやき野ノ原 源政仲

23 飛鳥井殿雅枝卿(22番と同人)

29 西洞院殿時慶卿御法名円空(右衛門督、寛永16薨88)

わかさ路やかさなる山へとをくとも

片恋 よるへなみしらぬみなとのかたし貝

さくへぎ花の春やこのまし 雅枝

あひかたき身を歎くころ哉 円空

24 飛鳥井殿庶流雅康卿御法名宋世

30 大智庵其阿替名心従(内藤隆春男。山口時宗善福寺11世。慶長18寂。明翰抄・汲古集に見ゆ)

(21番の弟、永正6卒74)

またしらぬたひの道にそ出にける

立春を 今日立といへはこゝろにやとり木の

38 同 野くらしの原人に問つゝ

よミ侍

はなさく春のまかふ空かな 心従

31 連歌師昌胤(里村昌隠、天和2卒50)

39 同 雪ならはまかきにのミはつもらしと

定なく降や箒木夕時雨 昌胤

おもひとくにそしら菊の花

32 連歌師紹尚(里村玄祥、延宝1卒)

40 近衛殿信尹公(関白、慶長19薨50)

鶯のねよけのしるし宿の梅 紹尚

春の夜の闇ハあやなし桜風

33 甘露寺殿親長卿御法名蓮空(権大納言、明応9薨77)

41 同 色こそみえねかやハかたるゝ

梅 にはふかを袖にうつさぬ花ならば

42 同 いつかたに引かくれなん世中に

おしかりぬへぎ梅のした風 蓮空

身のあれハこそ人もつらけれ

34 細川兵部大輔殿藤孝御法名玄旨(幽斎、慶長15卒77)

43 同 野辺の露ハ色もなくてやこほれつる

首夏藤 さぎのこる藤のうら葉のうらとけて

袖よりをくる萩のうら風

ひとつにかふる夏ころもかな 玄旨

しろたへの袖のわかれに露おちて

35 後奈良院 吉野やま春の雪とはみえながら

44 同 身にしむ色の秋風そふく

かをこそかハれ花にやあるらむ

45 同 わすれてはうちなげかるゝゆふへ哉

36 同 岩まもる波のしからミかけとめて

46 同 命をはあたる物ときゝしかと

流もやらすこほる山川

つらきかためはなくもあるかな

37 同 音たてゝ木すゑをはらふ山風も

あふことはさて山川のあさミこそ

けさよりはけし冬やきぬらん

47同 袖のミぬれてうきみ也けれ  
世をそむく所とかきくおく山は  
物みもひにそいるへかりける  
48同 消わひぬうつろふ人の秋の色に  
身をこからしの森のしら露  
49同 帰りこん程をや人にちぎらまし  
しのはれぬへき我身なりせは  
50同 せみのこゑきけハかなしな夏衣  
うすくや人のならんと思へハ  
51同 しら玉が露かとよへん人もかな  
物おもふ袖をさしてこたへん  
52同 竹ちかくよとこねはせし鶯の  
なくこゑきけハ朝ハさられす  
53同 日のひかりやふくわかねハいその上  
ふりにしさとに春は来にけり  
54同 いつはりのなき世にみえん時もなを  
おなし心や君にのこさむ  
55同 ほととぎすなくやさ月のミしか夜も

56同 ひとりしぬれはあかしかねつも  
人こころうす花そめのかりころも  
さくたにあらて色やかへらん  
57(宛札なし)  
思ひやる心はかりはさはらしを  
なにへたつらんミねのしら雪  
58 近衛殿信輔公(近衛信尹の前名、40番を見よ)  
こひしなんのちはなにせんいける身の  
ためしそ人へ見まくほしけれ  
59同 都にてなかめし月のもろ共に  
たひねの空にいてにける哉  
60同 さくらざくとを山とりのしたりおの  
なかくし日もあかぬ色かな  
61 青蓮院殿尊応(尊円流書家、永正11卒か)  
朝踏落花相伴出 暮随飛鳥一時帰  
62同 さくらちる木のしたかせはさむからて  
空にしられぬ雪そふりける  
63 後花園院(彦仁、文明2崩52)

64 後柏原院勝仁(2番を見よ)  
心とやもみちはすらむたつた山  
松ハしられしぬれぬ物かは

70 深更虫 霜吹まよふ風のはけしき 紹恵  
ふけゆけハまくらもとめてきりくす  
七ふになるよ十ふのすかこも 紹恵

65 後奈良院(3番を見よ)  
うらみしな今朝一ふてのをそくとも  
昨日はこひし人のこころを 勝仁

71 一条殿冬経公(関白兼輝、宝永2薨54)  
さひしさはその色としもなかりけり  
槇たつ山の秋の夕くれ

66 後陽成院(周仁、和仁、元和3崩47)  
さをしかの声きこゆなり宮きのよ  
もとあらのこはき花さかりかも

72 飛鳥井殿雅庸卿(誤ならん、一条関白内基、慶長16薨  
よそににぬ月をみよとや秋かせの 内基  
音羽のやまは雲霧もなき  
64)

67 寛文比仙洞様前廉之御宸翰  
よそにみてかへらむ人に藤の花  
はひまつはれと枝へあるとも

73 飛鳥井殿庶流雅康卿御法名宋世(24番を見よ)  
神祇 此やとのわかみつならし石清水  
神のめくみの春をむかへて 宋世

68 二条殿尹房公御法名紹恵(8番を見よ)  
ミゆらん物を古郷の月  
わすれしと契りていてしおもかけハ

74 勸修院殿経広卿(権大納言、貞享5薨83)  
秋かせのふき来し日より音羽山  
ミねの木末も色付にけり

69 寒草 花もいまなつさく露のふか草の  
さとハかりにもたれかとハまし  
ゆふしほの入江の蘆のそよさらに

75 烏丸殿光賢卿(権中納言、寛永15薨39)  
紹恵  
故郷のもとあらの小萩咲しより

よなく庭の月そうつろふ

来月廿四日

76 竹屋殿光長卿(権中納言、万治2薨64)

木のまよりもりくる月のかけミレハ

82 永源寺一糸和尚(臨濟宗近江永源寺住職、正保2寂39)

うきよにはかどせりてもみえなくに

こころつくしの秋はきにけり

なとかわかみのいてかてにする

77 東園殿基長朝臣(権大納言基雅、享保13薨54)

誰ための心つくしにあすしらぬ

83 東寺金勝院白清(

千鳥 須磨の関あり明の空になく千とり

身を思ふとて世をなげくらん

かたふく月ハなれもかなしや

78 野宮殿定基朝臣(権中納言、正徳1薨43)

大かたにするる月日をなかめしは

84 山崎住妙喜庵宗鑑(近江連歌師、天文22卒89)

けふこすハあすハ無とそふりなまし

わか身にとしのつもるなりけり

きらすはありとも花とミましや

79 林氏道春法印(江戸幕府儒者羅山、明暦3卒75)

月色幾望玉漸団 朱簾移影上高欄

85 周防山口大智庵其阿(30番を見よ)

散花のミつのまにくとめくれハ

和或人韻  
九月十三夜

一天陰霧皆奇夜 錯做岐陽微雪看 道春

山にも春はなく成にけり

80 和歌四天王頓阿(二階堂貞宗、文中1卒84)

のかれきてけにみるときハかはりけり

86 連歌師玄仲(里村北家、寛永15卒61)

こと浦の風より涼けし池の松

おもひやられし深山への月

87 鳥養宗慶(摂津鳥養流書家、

81 和歌所法印堯孝(常光院、康正1卒65)

紅葉浅深 故郷暮秋 海辺暁雲

開路 月 あふ坂はかへりこむ日をたのミても

空行月のせきもりそなき

88 八条殿穩仁(後水尾院皇子、桂宮三代、寛文5薨23)

いつくともはるの光ハわかなくに

94 裏辻殿季福卿(参議、寛永21薨40)

をのつから逢はあふもたのまれす

89 近衛殿尚嗣公(関白、承応2薨32)

またみよし野々やまは雪ふる

わかれそこひのまことなりける

89 近衛殿尚嗣公(関白、承応2薨32)

色かへるミの中山秋越て

95 岩倉殿具家卿前廉之御筆(参議具詮、延宝8薨51)

うつら鳴いはれの野への秋はきを

又とをさかるあふさかの関

おもふ人ともミへるけふかな

90 九条殿幸家公(関白、寛文5薨80)

鶴契 鶴の子の又やしはこの末までも

96 高辻殿長純卿(少納言、慶安1卒30)

百敷の大宮人はいとまあれや

91 壬生官務孝亮(小槻

追年 ふるき例をわか代とや見ん

97 川鑿殿基秀卿(正三位、寛文4薨59)

さくらかさしてけふもくらしつ

92 久我殿晴通公(権大納言、天正3薨57)

袖ひらてむすひし水のこほれるを

98 水無瀬殿兼成卿(権中納言、慶長7薨89)

みたれてはなのほころひにける

93 油小路殿隆基卿(権大納言、承応4薨61)

あらし明まくすかはらになく鹿は

99 金吾中納言殿秀秋卿(小早川秀秋、慶長7卒21)

うすくこき野へのみとりのわか草に

秋の野々草の袂か花薄

恨てのミやつまをこふらむ

跡まで見ゆる雪のむら消

93 油小路殿隆基卿(権大納言、承応4薨61)

ほに出てまねく袖とミゆらん

さよしくれ故郷とをきあつまやに

93 油小路殿隆基卿(権大納言、承応4薨61)

夢ち露けき草枕かな

100 秋田城介殿実季(万治2卒)

ね覚してたれか聞らん此比の

この柴にかゝるよはの時雨を

101 木下宮内少輔利房法名宗連(寛永14卒65)

白妙の袖のわかれに露をちて

身にしむ色の秋風そ吹

102 少輔東坊)

松しまのあたのとまやもいかならん

須磨のうら人しほたるゝかな

103 飛鳥井殿雅直(左中将、寛文2卒28)

おもふこといはてそたゝにやみぬへき

われはひとしき人しなけれは

104 梅園殿実清(正三位、寛文2薨54)

白雲の夕ゐるやまそなかりける

月をむかふるよものあらしに

105 竹中殿季有)

蛙なくゐての山ふき散にけり

はなのさかりにあはましものを

106 小野徳勝院禅昌)

扇

袖のうへに日ハうす物のあふき哉

107 本阿弥光悦(寛永14卒80)

わきもこかたひねの衣うすき深と

よきてふかなんよハの山風

108 宮内卿女筆)

さゆる夜は所もわかぬ霜なりや

いかてあさ日も山にをくらん

109 小野通女筆(尊円流書家、寛永8卒)

秋をきて時こそ有けれ菊のはな

うつろふからに色のまされば

110 (宛書なし、貞門俳人、高島玄札、元禄2卒83)

朽木の柳を題

楊枝にハせねとくち木の柳哉

玄札

111 (宛書なし、貞門俳人、野々口立圃、寛文9卒75)

池なミはかきつはたをやゆりの花

立圃

112 誹諧師斉藤徳元(貞門俳人、正保4卒89)

毛短に鶉もけふや衣かへ

徳元

113 (宛書なし、貞門俳人、石田未得、寛文9卒82)

楸ニ紅梅の立  
双たるをミテ

立ならふもミ紅梅や二木たけ

未得

114 当今様前廉之御筆

もしほ焼蟹の賤やの夕煙

立名もくるし思ひ絶なく

115 連歌師玄仲代筆(86番を見よ)

花

はなの香や四方の大満春の風

(毛利) 秀元

116 日野殿輝光(権大納言、享保2薨48)

春祝

民草もめくミになひく御代の春に

あかるをあふく天か下人

輝光

117 照光院道澄(尊院流書家、慶長13卒65)

いろはにほへと(下略)

一一三四五六七八九十

118 周防山口連歌師玄作(宗碩門弟・明翰抄・汲古集に見

ゆ)

歳暮

年こえて花鶯ハさもあらハあれ

おしまさらめやけふの夕暮

玄作

119 周防山口連歌師洪仙(宗祇門弟・明翰抄に見ゆ)

歎冬

ふゆの名をいふそあやしき山吹の

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

106 小野徳勝院禅昌)

扇

袖のうへに日ハうす物のあふき哉

107 本阿弥光悦(寛永14卒80)

わきもこかたひねの衣うすき深と

よきてふかなんよハの山風

108 宮内卿女筆)

さゆる夜は所もわかぬ霜なりや

いかてあさ日も山にをくらん

109 小野通女筆(尊円流書家、寛永8卒)

秋をきて時こそ有けれ菊のはな

うつろふからに色のまされば

110 (宛書なし、貞門俳人、高島玄札、元禄2卒83)

朽木の柳を題

楊枝にハせねとくち木の柳哉

玄札

111 (宛書なし、貞門俳人、野々口立圃、寛文9卒75)

池なミはかきつはたをやゆりの花

立圃

112 誹諧師斉藤徳元(貞門俳人、正保4卒89)

毛短に鶉もけふや衣かへ

徳元

113 (宛書なし、貞門俳人、石田未得、寛文9卒82)

120 周防山口連歌師宗漸(宗碩門弟・明翰抄に見ゆ)

花はにほひにしるき春風

洪仙

田家鳥 鴉のなく門田のくろの朝日影

よそにうつろふ村雀かな

宗漸

121 大内殿内連歌師隆善

不逢恋 日数へておもへハよるの夢にさへ

それとも見えぬ君か面かけ

隆善

122 大内殿内連歌師武之

旅泊夢 うき枕したふもしらすとまり船

夢はとまらてかへる浪哉

武之

123 大内殿内連歌師家居

鶺鴒川 月をそき鶺鴒川の岸の夢の波に

船さしいたす袖や涼しき

家居

124 大内殿内連歌師隆徳(野田兵部少輔)

故郷 ふるさとの軒のしのぶの夕露に

みたれてにほふ花のはる風

隆徳

125 大内殿内連歌師興基

春田雨 岩そくく水もたゞく春雨の

126 大内殿内連歌師承良  
松雪 白妙にふりこそつもれ岡の辺の  
承良

132 大内殿内連歌師孝順  
夜帰鷹 こし路へといそく心せしられける  
孝順

127 周防山口連歌師定珪(明翰抄、汲古集に見ゆ)  
岡紅葉 嶋かつら沐ししくればかた岡の  
松にもかゝる色をみせける  
定珪

133 大内殿内連歌師隆綱(天野六郎、弘治1卒)  
河 絶せしの富のを川のなかれにや  
かミ代くらぬ月ハすむらん  
隆綱

128 周防山口連歌師宗可(明翰抄、汲古集に見ゆ)  
梅欲散 鶯の羽かせはちらせちるとも  
うつろふ梅の色とやハミん  
宗可

134 大内殿内連歌師明源  
故郷霞 さくらさくなめらの山に来てミれば  
ふりにし志賀の霞ぬる哉  
明源

129 周防山口連歌師任源(明翰抄、汲古集に見ゆ)  
女郎花 むすひつる露やうらみん女郎花  
枕さためすなひく秋かせ  
任源

135 大内殿内連歌師長重(安倍九郎三郎、汲古集に見ゆ)  
炭竈 冬枯の木すゑをさむミ降雪の  
うちよりけふる小野のすみかま  
長重

130 大内殿内連歌師重輔(杉伯耆守、弘治2卒)  
氷室 谷ふかみもる木かけの氷室もり  
なつなき年をいく世へぬらむ  
重輔

136 大内殿内連歌師頼允(田原長十郎、汲古集に見ゆ)  
花 山たかみ頼にこめてさく花の  
ありとや風の空にほへる  
頼允

131 大内殿内連歌師興滋(波多野大和守)  
野雪 武蔵野や行来たえつゝふる雪に  
山のはつらき心とをられ  
隆勝

137 大内殿内連歌師隆勝  
夏月 よひのまに入ぬる夏の月影ハ  
つゆは結を氷の下おき  
隆辰

138 大内殿内連歌師敦定(沼間大蔵丞、汲古集に見ゆ)  
沢若菜 下もミの野沢の水の煙にそ  
つまむ若菜の程そしらるゝ  
敦定

144 大内殿内連歌師隆通(大田隠岐守、天文20卒)  
旅宿 うらなれて幾夜あかしの旅の宿に  
とまるや道の関し成らむ  
隆通

139 大内殿内連歌師武将  
浜帰鷹 立帰り浪とともにそゆく鷹の  
春のはま辺に名残をそ思ふ  
武将

145 大内殿内連歌師隆毎(汲古集に見ゆ)  
谷雪 ふミ分る人としもなく白妙の  
雪のミそつむ谷のほそ道  
隆毎

140 大内殿内連歌師宥任  
春雨 幾たひか袖にふりけんかり衣  
春の夕の雨の名こりを  
宥任

146 大内殿内連歌師光成  
故郷鶯 みよし野や雪のふる里道絶て  
春は跡あるうくひすの岑  
光成

141 大内殿内連歌師隆治(町野相模守)  
蚊遣火 夏の日にあつさわするゝ夕とも  
しらすやいかに蚊遣火の影  
隆治

147 大内殿内連歌師順賢  
夢 あたし世とおもひなからもかき曇る  
やミのうつゝの夢をしそおもふ  
順賢

142 大内殿内連歌師隆幸(豊田次郎兵衛、汲古集に見ゆ)  
秋露 花にそむ露こそあらめいかにして  
なみたも袖に秋をしるらん  
隆幸

148 大内殿内連歌師秀満  
夕霧 嶺高みいさよふ雲をたよりにて  
たなひきつゝく夕霧の影  
秀満

143 大内殿内連歌師隆辰  
庭秋 秋のかせちきりし庭の宿からに  
山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

149 大内殿内連歌師弥了  
埋火 しきたへの枕さえたる暁に

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

150 大内殿内連歌師儼智(汲古集に見ゆ)  
たのめはすこしぬるむ埋火  
弥了

156 大内殿御同朋吉阿  
くれなゐうすくをける霜かな  
柳庵

時雨 この比はしくれかちなる四方の空に  
またそめやらぬ木々の紅葉々  
儼智

霧 むら竹のうちなひきたる窓のまへに  
ふるをとたかき玉あられかな  
吉阿

151 大内殿内連歌師善弘(汲古集に見ゆ)

夕虫 夕まくれ露はいとはし虫のこゑの  
ちかき霜夜をうらミとやなく  
善弘

157 周防山口住大守坊良雄(天台宗興隆寺大坊カ)  
朝更衣 おりしありと今朝たちかへてうす衣  
ひとへに夏の色やみすらん  
良雄

152 大内殿内連歌師興式

忙 けふあすに暮ぬる年をみな人も  
おなし心の色や見ゆらん  
興式

158 周防山口神宮寺長老春蒼(汲古集に見ゆ、真言宗神  
福寺カ)  
暁 しつかなる心を窓のたよりにて  
学ふみちしや暁ならし  
春蒼

153 大内殿内連歌師隆所

暮春 ときはなる松にかゝりて咲藤の  
花もちとせの春やへぬらん  
隆所

159 山口住日誓聖人(法花宗本国寺カ)

牧春駒 みちのくや野くれ山くれ春かすみ  
こゝろひかるゝ牧のあら駒  
日誓

154 大内殿内連歌師興村

五月雨 はれ行か吹方かへる夕風の  
雲間は月の五月雨の色  
興村

160 成満寺弥阿

郭公 ほととぎす有明の月の一声に  
こゝろのゆかぬ山端もなし  
弥阿

155 大内殿御同朋柳庵

紅葉霜 露時雨ちしほにそむる紅葉はの

161 周防山口条福寺快雄(臨濟宗乗福寺カ)

寄松祝 おひ立ていく枝茂るや千代の松

みな祝言に友なひそゆく  
快雄

一親句におひて二儀あり、一ニハ響の親句、

162 義隆公 小槻官務伊治代筆(天文20卒)

社頭霞 春の色は今そみかさの山高ミ  
かけてかすめる峰の松原  
義隆

二ニハ正親句也、響の親句につめて又二種  
あり、一ニハ五音相通、二ニハ五音連声な  
り、五音相通ハゆゝしき秘事也、五音連声  
ハ五七七の句のうつりのひゞきのきれい

163 慈鎮和尚(天台座主大僧正慈円、嘉禄1寂71)

蓬萊事 男外女といふハおさなき童又女也、徐福海  
をすきて平原広沢といふ所にとまりぬそ

る歌ハ命なき歌也、ほのくゝとをちの外山  
にきなくなりしはしかたらへねくらさため

164 明智日向守殿光秀(天正10卒57)

書状披見候 一、道今明日中可出来候由尤候

168 極札無之 雪窓

169 極札無之 竜宮波動群魚従鳳羽雲

170 中院源通茂(内大臣、宝永7薨80)

見わたせは柳さくらをこきませて

166 弘法大師(真言宗開祖空海、承和2寂62)

是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不浄不増  
不減是故空中无色无受想行識无眼

狩野縫殿之助(永納、元禄13卒67)

(都大内の春景画)

167 連歌師心敬(権大僧都、文明7寂76)

不滅是故空中无色无受想行識无眼

171 野々宮源定縁(権中納言、延宝5薨41)

きかすともこゝをせにせんほととぎす

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)



吉川了也( )

(野外春景画)

172 花本祖白(里村昌通)

長門なるあふの郡の柚板ハ

もろこし人のすさめなりけり

山本素程(狩野派山本守次、元禄年間の人)

(山村風景画)

173 伏原清宣幸(大藏卿、宝永2薨69)

張良遊下邳圯上有一老父直墮其履圯下顧謂

良曰孺子下取履良愕然欲歐之為其老迺疆忍

取履因跪進父以足受之曰孺子可教後五日平

明与我期此良諾及期示一編書曰誦是則為主

者師終佐漢封万户侯

住吉内記(広純)

(張良肖像画)

174 堀川藤康綱(参議、宝永2薨51)

むかふ津のおくの入江のさゝ波ハ

のりかくあまの袖やぬれけん

海北友雪(海北派画家、延宝5卒80)

(画は欠落)

175 阿野源季信(権大納言実藤、元禄6薨60)

世中をいとふまでこそかたからぬ

かりのやとりをおしむ君かな

住吉内記(173番を見よ)

(道成寺画)

176 一乘院御門跡

かくてのミヤむへき物か千早振

かもの社の万代を見む

海北友雪(174番を見よ)

(社頭風景画)

177 聖護院御門跡

二葉よりたのもしきかな春日山

木たかき松のたねそとおもへは

狩野貞実( )

(山水風景画)

178 花本祖白(172番を見よ)

とやに入八日やくしの日なればや

鷹に羽むしの葉かふらん

吉川了也(171番を見よ)

(鷹之図)

179 正親町藤公通(権大納言、享保18薨81)

たくれ見る松のあらしやたゆむらん

おのへにかへるさはしかのこゑ

山本文体( )

(野に鹿の秋景画)

180 驚尾藤隆尹(権大納言、貞享1薨40)

わけ入て袖にあハれをかけよとて

つゆけき庭にむしさへそなく

山本素程(172番を見よ)

(秋景山水画)

181 阿野源季信(175番を見よ)

さゝ波やうちいてふみれば白妙の

瀬田の長橋雪をかけたる

狩野貞実(177番を見よ)

山口図書館本『仮御手鑑』について(田村)

(画は欠落)

182 浮田殿秀家公(宇喜多秀家、明暦1死84)

鷹飛碧落 書青紙

183 八条殿智仁親王(後陽成院皇弟、桂宮祖、寛永6薨51)

たのめつゝこぬ夜あまたになりぬれハ

またしとおもふそ待にまされる

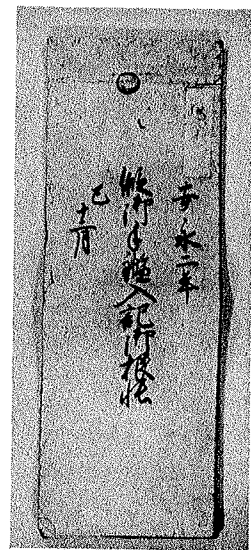
184 日野殿輝光卿(116番を見よ)

音はしていさよふなミもかすみけり

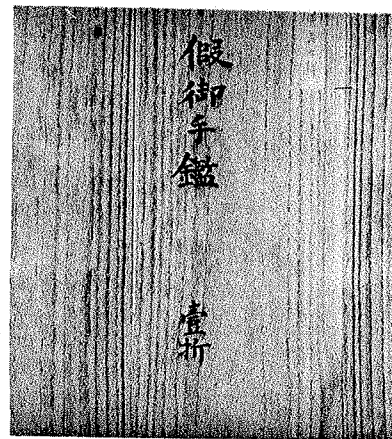
やそうら河のはるの明ほの

185 同 君か代は千世にひとたひある鹿の

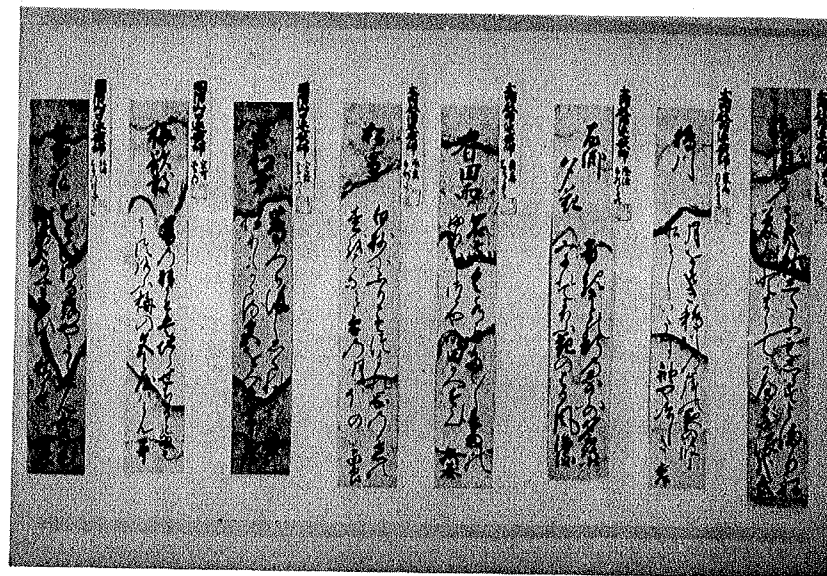
白雲かゝる山となるまで



(假御手鏡別冊横)



(假御手鏡桐箱)



(本文 122番~129番を見よ)